

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2016-夏

No.81

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



二条城庭園 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

バターリャの修道院

(ポルトガル共和国)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©UNESCO

ポルトガルの首都リスボンの北約一四〇キロほどのレイリアにある修道院で、カトリックのドミニコ会派に所属する。一三八五年に王位継承問題から大國カステイリャ王国軍と戦ったポルトガル王ジョアン一世軍は、聖母に祈りを捧げ、奇跡の勝利を得た。戦勝後に戦場の近くに建設されたのが、この勝利の「聖母マリア修道院」である。十八世紀のリスボン大地震やフランス軍の侵攻にも耐えて、ポルトガル国民の誇りを今に伝えている。

この修道院はポルトガルにおいて最もユニークで重要なゴシックとマヌエル様式の混合する建築物のひとつである。

(一九八三年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

理事長就任の御挨拶

この度、宮田亮平前理事長の文化庁長官御就任に伴い、第五代理事を拝命いたしました宮廻正明です。

当財団の創設者であらせられた故・平山郁夫先生は、日本画家である私にとって、恩師です。

平山先生は、文化による世界平和への貢献、文化による社会貢献というお考えのもとに「文化財赤十字構想」を提唱されておりました。日本の文化を守り、世界の貴重な文化遺産の保護に貢献する、という当財団の基本姿勢はこの精神に基づいています。

恩師の創設された財団の舵取りを任せられたことは光栄であるとともに、大変、身の引き締まる思いです。私はもう一度、学生時代に戻り、師の教えをひとつひとつ反芻し、事にあたってまいります。

私は東京藝術大学で開発した特許技術を活用して、目下、壁画の凹凸や質感までも忠実に再現する、言わばクローン壁画の製作に取り組んでおります。

その成果は、東京藝術大学の大学美術館陳列館で開催されました「東京藝術大学アファガニスタン特別企画展 素心 パーミヤン大仏天井壁画」流出文化財とともに「」において、発表させていただきましたので、御覧になった方も多くと思います。

皆さま御存知のようにパーミヤン渓谷の東西

ふたつの大仏は、二〇〇一年にイスラム原理主義を唱えるタリバンの手によって爆破されてしまいました。陳列館で披露させていただいたのは、一九七〇年代に撮影された東大仏龕天井壁画をもとに新しいデジタル技術を用いて実物大に再現したもので、アナログ技術とデジタル技術が融合して生まれたクローンです。この技術がもつと発達すれば、文化財の保護・保存分野でも大いに役立つものと思われれます。

話は変わりますが平山先生は瀬戸内海に浮かぶ生口島で生をうけられました。私は中国山地をはさんで、反対側の島根県で生をうけました。山ひとつ隔てて、陽光は瀬戸内海と日本海とはまるで異なります。特に冬の寒さは厳しいものがあります。

しかし、島根県すなわち出雲の地は、神話と歴史のふるさとであり、古代文化が栄えた地です。平山先生は平成十年（一九九八）の第八十三回院展に「八雲立つ出雲路古代幻想」という大作を出展されました。私は、この作品を拝見したとき、先生が島根県の人々の誇りを代弁してくださったような気持ちに駆られました。

国家、あるいは民族が先祖から受け継いだ文化・芸術はそれぞれの誇りでもあります。そうした文化・芸術の交流は世界平和にとって大いに意義があります。また、これを次の世代に伝えることは、今を生きる私たちの義務です。そ



東京藝術大学大学院美術研究科
教授・社会連携センター長
宮廻正明
(みやまけい・まこと)

うした活動を支援することは大いなる喜びです。当財団は微力ではありますが、創設以来この支援事業を続けてまいりました。その組織の長として任務を遂行することは、私自身大変名誉なことと思っております。

理事長就任からまだ日も浅い私ですが、喫緊の課題としてふたつの案件と向かいあっております。ひとつは去る四月十四日に起きた熊本地震です。五年前の東日本大震災の際には、当財団はいち早く文化庁をはじめ関連諸機関との協力のもとに被災文化財の復旧支援事業を立ち上げました。今回もあの時に得たノウハウを生かし、被災文化財の復旧支援事業に取り組んでまいります。

もうひとつの課題は12回目を迎える「日中韓文化交流フォーラム」です。本年は日本がホスト国です。この三国は、時に政治的には困難な厳しい状況を迎えることもありますが、文化における交流は別の次元だと、私は思っております。パートナーである国際交流基金の皆さまとよく相談して、実のあるフォーラムにいたしたいと考えております。

私自身、財団運営は初めて体験する世界です。すべてにおいて全力を尽くしたいと思っておりますので、今後とも皆さまのより一層の御指導・御鞭撻、さらには御支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

東日本大震災から五年を経て……

——繰り返される自然災害と文化財被害——

五年前、日本列島を襲った未曾有の大震災。
私たちはこの自然災害から何を学んだのだろうか。繰り返される
自然災害の中で私たちが為すべきことは……。

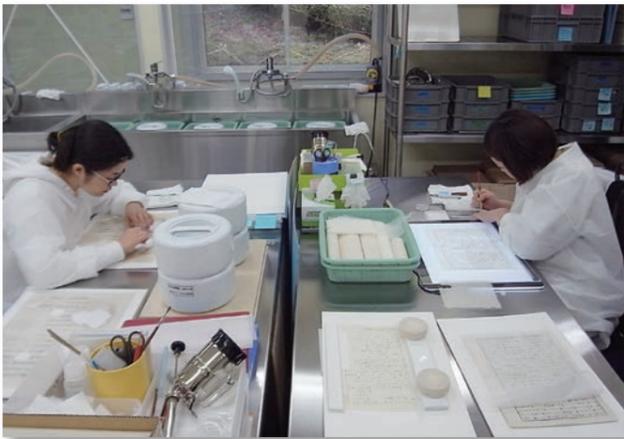


東京文化財研究所
保存科学研究センター長
岡田 健
(おくだ・けん)

うち続く大規模自然災害を まのあたりにして

平成二十六年、文化庁の補助金による「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」として、独立行政法人国立文化財機構が担当する「文化財防災ネットワーク推進事業」が開始されました。これは、平成二十三年三月の東日本大震災によって被災した東北各県の文化財・地域資料を救出・保全するために活動した「東日本太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」による文化財レスキュー事業」が二年間の活動を終え、平成二十五年三月に総括のシンポジウムを行った際、参加した各団体によって「今後もこの連携を維持し、文化財防災のための緩やかなネットワークを構築していこう」という約束がなされたことを契機として、全国的な連携体制構築の活動を実現するために始められた事業です。

私は今回、平成二十八年四月の国立文化財機構の人事異動において、すでに同機構に設置されていた防災ネットワーク推進本部（本部長：佐々木丞平機構理事）の推進室長を兼務することになりました。そして、この事業の本格的な推進に取り組みするため、ネットワーク参画団体へのメッセージを発信しよう



今も続く保存処置作業（岩手県立博物館・2015年11月）



2年ぶりの救出作業（福島県富岡町コミュニティセンター・2013年5月）

としていた矢先の四月十四日の夜と十六日の未明、熊本県を中心とする震度7の強烈な地震が二度にわたって発生しました。
自然災害が繰り返し巡り来るものであることは分かっていた。東日本大震災発生から五年。私たちは確かにたくさん経験をし、次の体制作りに向けての数限りない議論をし、実際の連携体制作りにも着手していたはず。それなのにまた、すべてを一から作っていかねばならない局面に遭遇しているのは何故なのだろう。いま熊本県へ出かけて現地の被災状況聞き、今後の救援活動に向けての組織体制についての見通しを考えながら、私がつくづく思うのは、文化財被害の様相や、発生後の文化財関係者の対応の仕方が、毎回、地域によって、すべてに異なる、ということです。

東日本大震災の教訓

五年前、あの広範囲で複雑な地理的環境を擁する地域を襲った地震と津波、そして原子力発電所の爆発事故は、救援委員会が実際に活動を行った岩手・宮城・福島・茨城の各県において、まったく異なる文化財被災の状況を生み出した。それに直面する博

たち。県外から救出活動に支援の手を差し伸べようとする組織や人たち。救援委員会に参加する組織もあれば、個別に活動を行った組織や個人の専門家たちもいました。人びとはそれぞれの立場で震災の中に身を置き、おのずから、文化財救出についての考え方も、行動の仕方も異なっていました。

当時、私が担当した救援委員会事務局は、文化庁に対して支援要請を出した四県でしか活動できませんでした。しかし実際には、四県以外の地域でも多数の文化財が被災し、これに対して独自の救出活動が行われ、多くのボランティアがそれを支えていたのです。平成二十三年八月の台風十二号では、和歌山県をはじめとして各地で土砂崩れなどが発生し、文化財も被害を受けましたが、東北地方に特化して設置された救援委員会は、その役割に縛られ、何ら活動を起こしませんでした。仮に救援委員会が設置されたとしても、せつかくの救援委員会が当該県から文化庁への支援要請に応じるための委員会であるがゆえに、要請を出さない県では機能しないのです。このことは、数え切れない課題の中でも特に銘記すべきものであると、私は考えます。いま、熊本県での文化財レスキュー事業実施、救援委員会の設置が急がれています。それによって、大分県をはじめ近隣各県における被災文化財の救出が、その地域の人たちだけで我慢して行うものとなつてはいけません。

そのような認識を持つとき、私たち文化財防災ネットワークに与えられた役割は、国に対する都道府県からの正式な支援要請の有無、文化庁による文化財レスキューの実施の有無にかかわらず、ネットワーク参画団体の能力や特色を活かして、どのように被災地域との連携を作り、救援活動を実現させるか、というものであることが明らかにあります。問われるのは震災の規模でも活動規模の大小でもありません。



美術作品救出作業（宮城県石巻文化センター・2011年4月）

未解決の課題に立ちむかう努力を……

さて、そこでもう一つ課題となるのは、救援活動を実現するために必要な資金をいかにして調達するかです。

国指定の重要文化財や国宝に関しては、文化庁は通常の年度予算から経費を充てることができません。しかし、私たちが担う救援活動の対象は、数多くの未指定文化財を含みます。また、生物標本や動物標本など、地域の自然に関する資料もあります。それが対象となる活動に対して文化庁は予算措置ができないとして、東日本大震災では文化庁長官による募金の呼びかけが行われ、それに応じた国民の浄財や団体の寄付によって、レスキュー事業が行われました。事業に参加した各団体が、それぞれ独自の予算を調整し、いわば持ち出しによって経費を賄ったことで、とくに募金開始直後の時期を乗り切ったことも、特筆しておかなければなりません。それにしてからもこれからも毎回、このような資金繰りで文化財のレスキュー活動は行われていくのか。そのことについての議論も解決策の提示もありません。次々と自然災害が発生しています。

そして、救出された文化財の修復についても、当然未指定文化財に関しては資金面の課題があります。個人所有の未指定文化財について、私たちは所有者に対して、これは地域の歴史を物語る貴重な文化財ですからみんなで守っていきましょう、と呼びかけ、その救出に同意を求めます。その結果、それまで「文化財」だと思われていなかったモノの修復のために、巨額の費用が所有者の肩に重くのしかかる、ということもあります。少なくとも、私たちが文化財レスキューとして救出したものについては、私たちの責任で最後の修復までたどり着く。そのような資金の確保こそが必要であると、私は考えます。

進化する動物園

気づきの場

恩賜上野動物園は日本を代表する動物園であり、上野の象徴でもある。ヒゲの園長さんとして親しまれている土居先生の動物園学の講座をどうぞ……！



恩賜上野動物園・園長 土居利光 (とすいちか)

動物園の誕生と使命

恩賜上野動物園は、1882年(明治15)、日本で最初に開園した動物園である。この年のちょうど130年前、1752年にウィーンのシェンブルン宮殿に動物コレクションが造られ、それに始まるウィーン動物園が世界初として1765年から一般に公開されている。その後1882年まで間に、ヨーロッパでは24にも及ぶ動物園が姿を現した。ヨーロッパを範として日本の動物園は誕生した。恩賜上野動物園は、最初は博物館の付属施設であったのが、後に東京市に下賜された歴史を持つ。同様の経緯をたどるのが1915年(大正4)に開園した大阪市立天王寺動物園である。また、1890年には名古屋市の浪越教育動物園、1899年には愛知県の豊橋市に安藤動物園など民間の動物園も開設されている。野生動物を飼育するという歴史は古く、紀元前からの記録があるが、これらの動物園の特徴は、一般の人が観覧できるという点にあった。こうして誕生した今日の動物園の使命として、現在では、①知的な娯楽を提供するレクリエーションの場、②野生動物保全などの自然保護に貢献する場、③動物の知識に関する教育の場、④これらの役割を円滑に進めるための研究の場、を挙げることが動物園関係者の間では定説となっている。



2011年に完成したホッキョクグマの飼育舎は、従来の面積を3倍に拡張し、土の放飼場を用意するなど絶滅危惧種であるホッキョクグマが生き生きと暮らせるように配慮してある。カナダのマニトバ州が制定した法における施設基準で造られており、マニトバ州は野生のホッキョクグマの聖地とも呼ばれている。

ホッキョクグマは、北極地方の海洋環境において生態系の頂点に立って生息している。温暖化の影響で海水が少なくなり生態系が変化してきているため、種の存続が危ぶまれている。単独で行動するため雌雄別に飼育しているが、繁殖期に備えて飼育している雄イッコと雌デアのお見合いを行なった。相性は良さそうである。



されることになってきている。第二は、動物を自然界から捕獲して導入することが少なくなってきたことである。これは大型動物では特に顕著であり、動物園間の交換によって繁殖と展示が行われるとともに、そのためのシステムが確立されてきた。第三には、外部組織に依存する傾向が強くなっていることが挙げられる。例えば、飼料についても、特定の動物用に開発・製品化されたものが用いられるようになってきたほか、肉や野菜の調達も外部の会社などに任せられるようになってきている。第四は、動物園の官僚組織化である。つまり、

しかし、この使命について幾つかの疑問点が指摘されてきた。つまり、四つの使命とは動物園が抱える現実の課題というよりも社会に対する宣伝文句なのではないか、動物園はレクリエーション施設としてのみ社会から認知されているのではないかなどである。こうした指摘は、実は動物園が社会によって作られた存在であることを示していることに他ならない。裏を返せば、動物園が存続していくためには、社会に存在する意義を持ち、社会に対して機能を果たしているとみなされている必要がある。

近代における動物園の特徴

イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズは、その著書「近代とはいかなる時代か？」において、近代とは、17世紀以降のヨーロッパに出現し、その後ほぼ世界中に影響が及ぶこととなった社会生活や社会組織の様式であるとした上で、伝統的な社会秩序と非連続的となっており、その非連続性とは①変動の速さ、②世界中に及ぶ変動の広がり、③国民国家という政治システム、④無生物エネルギー源への生産の全面的な依存、⑤生産物と賃金労働の徹底



ニシローランドゴリラは、シルバーバックと呼ばれる雄1頭と複数の雌とその子から成る群をつくる。このため、以前には夜は個別の部屋で過ごさせていたのを2011年から終日一緒に生活できるようにしている。2013年に生まれたこの雌の子は、産室ではなく群の中で産声をあげた。現在では、動物の生活環境に即した飼育舎の設置が重要となっている。

動物を管理する職員が動物種などによって専門化が図られ、階級化されているほか、文書による事務処理などが行われているなど組織の充実が図られてきた。第五は動物園の商品化といえる動きである。雑誌に動物園や水族館のランキングが公表されるなど動物園そのものが一種の商品のように扱われ、社会的なレクリエーションの枠組みの中に組み入れられてきた。

これからの動物園の意義

以上のような動物園の特徴は、動物園が都市環境の中に存在し、都市的な生活様式にしたがって運営されていることに主に起因していると言えよう。現代の動物園は社会によって作られた存在であり、だからこそ、動物園が存続していくためには、社会において存在する意義を持つと同時に、社会に対して機能を果たしている存在としてみなされ続けることが重要となっている。そうした状況のなかで、都市における動物園として、目指す方向については次の二点が重要であると考えられる。

第一は、飼育している野生動物について、理解し共

した商品化など、従来にはなかった社会形態によって特徴づけられる、としている。動物園の多くは都市に立地しているが、都市とは、ギデンズが示す社会形態が投影された場であり、社会生活が制御できるように設定されたテクノロジーの集積と、そのテクノロジーに依存せざるを得ない人間の集積である。動物園は近代的な存在であり、基本的に、次のような特徴を持っている。第一は、都市のなかにあつて人工エネルギーの消費を前提として造られていることである。近年では、動物の生態を考慮した展示方法が採られているため、自然に似せた環境を作ろうとすればするほど動物舎の管理には多くの人工エネルギーが消費



ジャイアントパンダは、1972年に日本に導入されて以来、多くの人気を博している。その容姿や赤ちゃんに似た仕草などから「可愛い」と評される。進化の過程で「竹を食す」という選択をしたため、竹のある環境でしか種が生存できなくなった。このため自然保護のシンボルとも言うべき存在である。これは雄のリーリーで、啓発用のリーフレットに掲載された写真である。

感を持つてもらえるようにすること、自然への共感を呼び起こすことに一層の努力を払うことではないだろうか。動物園は、社会の動向に合わせて野生動物の保全を中心とした課題として設定するようになってきた。ギデンズが、現代の人々の多くは、環境問題のような直面する危機に対して「いわば退屈感とも称しうる麻痺感覚」を持っていると指摘している。これは野生動物についても同様である。本来は野生動物の生息地を守っていくことが基本となるが、一般の人々には「具体的な行動の方法が分からない」といった一種の諦め感が見られよう。これを解消するため、実際の動物を見ることや感じることを通して、人々が進んで野生動物の保全に協力するようになる状況づくりを行うことが動物園に求められている。

第二には、地域の中心として、またコミュニケーションの場としての意義をより発揮する必要があると思う。動物園はもともと、余暇時間と結び付いた地域的な場所としての一面を持っている。気取りもなく、会話もはずみ、気兼ねなく行くことができ、日常の束縛から離れて、楽しむことができる場所は生活に不可欠だ。つまり、人々には、家庭や職場などの場のほかに、交流の場も必要であり、動物園は家族、グループ、カッブルなどの交流の場となる。特に、人工化が進んだ都市において自然的要素を残していることも見逃せない。動物園は社会の変化に合わせて使命を進化させてきたが、いつの時代にあつても「気づきの場」であり、気づきの対象は変わってもその本質は変わらないと思う。

筆者略歴

一九五一年東京都生まれ。千葉大学造園学科卒。東京都庁入庁後、自然公園課長、多摩動物公園園長等を経て、二〇一一年より現職。『野生との共存』(共著)等、著書・論文多数。二〇一〇年より首都大学東京の客員教授。趣味で片桐石州(貞昌)を流祖と仰ぐ石州流の茶道を嗜む。

尼門跡寺院

文化財保存・修復プロジェクトの今、そしてこれから

宮中の「雅」の文化を今に伝える
尼門跡寺院の貴重な文化財を守る
人々の熱意と努力をみる……。

ふたりの恩人

毎年、文化財保護・芸術研究助成財団では尼門跡寺院修復プロジェクトとして宝物の修復を行なって頂いている。なぜ尼門跡寺院の宝物が特別なのか、それは宝物の特殊な由来とともに、支援する意味意義を認めた人たちがいたからと言えるだろう。



修復を終え、真如寺の法堂に安置された本覚院宮像

その研究者はアメリカ、ニューヨークのコーンビア大学名誉教授、パーバ・ルーシユである。日本の文学、文化史など広く見据えた研究を進めていた時に、あまり知られていなかった鎌倉時代の高僧、無外如大禪尼像と出会ったと言う。無外如大(一二二二—一二九八)は、中国から臨済禅を伝え、鎌倉円覚寺の開山、無学祖元の法を嗣ぎ、印可を受け、禅宗法系に取り入れられた最初の尼僧とされている。如大尼が建立した広大な禪宗尼寺景愛寺は室町時代になると京都尼五山寺院のトップになり、今日まで尼門跡寺院三カ寺でその法灯が受け継がれている。

他の尼門跡寺院も、室町後期から江戸時代に皇女や位の高い女房が住持し比丘尼御所と呼ばれた。やがて明治以降「尼門跡寺院」となった。今に残る京都、奈良の尼門跡寺院では毎日の勤行が行なわれると同時に、昔から伝わる御所文化を守りつづける重要な存在と認識されている。

一九九八年、当時、中世日本研究所の所長であったルーシユ

はニューヨークで如大禪尼の七〇〇年遠忌を開催することにした。このような活動を機に、皇后陛下が尼門跡の修復事業に関心をお寄せくださり、文化財保護・芸術研究助成財団の設立者である故・平山郁夫氏をご紹介頂いたのがこのプロジェクトの始まりとなった。

多くの善意の「支援のもとに」……

二〇〇〇年から出発したこのプロジェクトも十五年を過ぎ、皇后陛下の尼門跡寺院へのご支援は、大聖寺文化・護友会の名譽総裁に秋篠宮妃殿下に御就任賜るといふ形で受け継がれている。そしてこれからは歴史ある全ての尼門跡寺院をお守りする上で大きな支えとなることとなった。大聖寺文化・護友会総会にご臨席頂いた妃殿下よりお言葉を賜り、財団の尼門跡寺院修復プロジェクトのことも触れて頂いたことがこのプロジェクトの重要性を物語っている。

本プロジェクトでは尼門跡寺院の意向をもとに、重要度緊急度などを検討し、当研究所において修復対象を選定し、文化財保護・芸術研究助成財団に

れ、ニュースレターなど社内外に報告、広報される。広報紙には文化財修復の大切さとともに次のような共通点があることを述べられていた。「一見異なる分野ではあるが、社会インフラ設備の補修・定期点検作業などのように、地道で大変息の長い作業工程であり、また人材育成の面における高度な技術・技能の伝承や修復に用いる材料に対する高い要求品質等、分野は異なるものの通ずる面も多々ある」と、また、会社の社会貢献事業により、文化に触れる機会になればとも言われていた。

少し紹介すると、最近修復された宝物には、御所文化に関係する源氏物語図屏風(中宮寺蔵)、七草絵巻(法華寺蔵)、二階厨子棚(三時知恩寺蔵)、そして歴史的に重要な染織品である、伝・東福門院十二単皆具、唐衣表着(霊鑑寺蔵)などがある。また、弁財天像掛軸(光照院蔵)、仏涅槃図(曇華院蔵)や今修復中の宝鏡寺歴代住持の肖像彫刻(真如寺蔵)などがある。

プロジェクトは新たな日本文化の創成

ここでその中の二つの宝物の修復とそれによる社会的文化的な影響について触れたい。

霊鑑寺蔵「十二単」(五衣唐衣装)の重要性は、二代將軍徳川秀忠の娘で後水尾天皇(一五九六—一六八〇)に入内した東福門院(二六〇七—一六七八)ゆかりであり時代が確かに証明できることと、唐衣裳装束から几帳まで、全「十二単」が残る最古の皆具であることであ



大聖寺本堂で写生中の平山郁夫先生(2003年)

る。お寺で保管されてきた理由は恐らく霊鑑寺の開山であった後水尾天皇の皇女・多利宮(一六三九—一六七八)への親からの心のこもった贈り物だからだろう。プロジェクトでは唐衣と表着が修復された。痛んだところと弱くなった肩や縫い代などを補修保護した。安心して展示できる状態に修復された唐衣と表着は二〇一四年に東京国立博物館に出展された。修復の行われた二〇一三年に京都府がこの「唐衣裳装束一式」を指定品とした。その結果、京都府に修復の助成を申請することが出来、裳と懸帯の修復もすることが出来た。これからの目標は、他に例がない江戸前期の几帳二枚の修復を完了させることである。

他にも、文化財保護・芸術研究助成財団の尼門跡修復プロジェクトによ



「源氏物語図屏風」の修復を担当された京都・岡墨光堂のスタッフの皆さん

り、想定以上の良い成果が得られた。それは、宝鏡寺住持であった本覚院宮(徳嚴理豊、一六七二—一七四五)の尼僧像の修復を行った結果から生まれた。本覚院宮は後西天皇(一六三八—一六八五)皇女で、後水尾天皇の孫にあり、一六八三年に十二歳で入寺した。絵と書道に優れ、住職として堂宇を復興し、寺の歴史や無外如大の伝記を書き留めるなどの活動により中興とされた。この本覚院宮の座像は宝鏡寺の歴代門跡の菩提寺、または先に述べた無外如大禪尼が関係する真如寺にあり、そこに御墓とともに四躰の宮様の座像が安置されている。その中で一番新しい十八世紀の本覚院宮の像の痛みがひどく、絵具が剥落し、寄木造りの足などが本体から離れ、バラバラになりかけていたが、修復によって元の美しい

姿を取り戻した。今は四躰のうち二躰目である後水尾天皇の娘、高徳院宮の御像の修復が美術院で行なわれている。真如寺では修復された御像の元の安置場所に不安があった。経年劣化で天井の板に隙間ができていたし、法堂の補強も必要であった。御像の修復から、建物の修復の必要性に迫られ、住職は京都府文化財保護課の協力や他の助成なども得ることができ、無事に建造物の修理も進めることができた。そして、今まで非公開であった寺院は、今年初めて、京都市観光協会の依頼に応え、特定期間のみの一般公開も実現した。一躰の御像の修復プロジェクトが寺院の活動のいたる面に影響を及ぼしたのである。

故・平山郁夫氏は皇后陛下の日本赤十字社の名誉総裁としてのお努めを手本として、文化財のための赤十字活動を始められたと、うかがっているが、尼門跡修復プロジェクトにより宝物が修復されることで、文化財が健全になるだけでなく、健康を取り戻した宝物は尼門跡寺院全体に活力を与え、未来に向けてそのよき連鎖反応が確かな広がりを見せている。

筆者紹介

一九四五年アメリカ生まれ。ラドクリフ大学卒。同志社女子大学講師、神戸女学院大学助教授、大谷大学教授を経て、現職。「尼門跡寺院の世界」(共著)をはじめ、多くの著作、翻訳がある。



女性仏教文化史研究所(中世日本研究所)所長
モニカ・ベエテ



大聖寺文化・護友会の名譽総裁に御就任あそばされた秋篠宮妃殿下

推薦する形で申請し、毎年一点ずつ修復を行っている。現在は東芝プラントシステム株式会社による社会貢献活動としての支援を得ている。支援の形がどのようなものなのか、東芝プラントシステム株式会社の担当者の方々は、毎回、所蔵者の寺院はもちろん、修復を担当するそれぞれの専門の修復工房を視察し、修復技術だけでなく、その工程や材料なども取材さ

アフガニスタン 流出文化財返還式に臨んで

懸案であった流失文化財の返還式が滞りなく終了。事の発端から15年、アフガニスタンの宝は、いよいよ帰国の途に……

流出文化財について

シルクロードの要衝であり、文明の十字路とも称されたアフガニスタン。近代化の波が押し寄せてくるまでは、美しいのどかな国であったといえます。一九七九年、アフガニスタンの内部紛争をきっかけにソ連軍が侵攻したことから、内戦は国際化し、多くの人々の尊い生命と大事な財産も失われました。被害は文化財として例外ではありませんでした。特に一九八九年にソ連軍

撤退後に台頭してきたイスラム原理主義を標榜するタリバンは、偶像崇拜を禁じるとの名目の下にアフガニスタンの文化遺産の破壊を始めました。その結果、アフガニスタンの貴重な文化遺産はさまざまなルートで、多くは闇ルートで世界に流れました。

シルクロードを生涯のテーマとして描き続けた当財団の理事長でもあった平山郁夫先生は、この時期に日本に入ってきたアフガニスタンの文化財を「文化財難民」と命名され、これを保護し、必要な場合には修復し、責任をもって

守っていくことを決意されたのです。

こうして、二〇〇一年六月に「流出文化財保護日本委員会」が設立され、ユネスコの協力も得て、今日までアフガニスタンの人々の誇りでもある大切な宝物を保護・管理してきました。

返還の日

アフガニスタンへ返還される文化財は一〇二点。その内の一五点は、「特別展・黄金のアフガニスタン」を守りぬかれたシルクロードの秘宝」で、残り八七点は東京藝術大学の陳列館において四月十一日から六月十九日まで公開されました。日本で一〇二点の文化財を一度に鑑賞できるのは、今回が最初にして最後であったろうと思います。

返還の式典は、四月十一日、東京国立博物館の大講堂で午後一時半より執り行われました。アフガニスタン側からは、情報文化省副大臣のザルダシュ・ト・シャムス氏や駐

日大使であるセイエド・モハマド・アミン・ファティミ氏など、九人の要人が、日本側からは宮田亮平文化庁長官をはじめ、銭谷眞美東京国立博物館長など多くの関係者が出席。式はフジテレビの内田嶺衣奈アナウンサーの司会進行のもと、華やかな雰囲気の中にも肅々と進んでゆきました。そして、日本文と英文で記された返還に関する合意書にシャムス副大臣と流出文化財保護日本委員会の委員長でもある当財団の宮廻正明理事長が署名。日本とアフガニスタン両国の今後の発展を祈念して、おふたりが硬い握手をかわして、式典は無事終了しました。現在の予定では、返還された文化財は世界を巡回した後にアフガニスタンへ帰ります。私たちは、その旅が善いことを祈るばかりです。

写真提供 佐野靖史



文化財難民について熱く語る平山郁夫先生の肉声がビデオで紹介される



返還に関する合意書の署名を終えた宮廻委員長(左)とシャムス副大臣(右)



東京国立博物館のキャラクターであるトーハフ君も登場して花を添える



返還式後に特別展のオープニングカット

緊急報告とお願い

熊本地震の被災文化財に 支援の手を……

東日本大震災から五年。大地震という魔の手が九州の熊本、大分の地に襲来。地震は日本列島の宿命とは言え、今回も甚大な被害が発生。この悲劇と困難には叡智をもって乗り越えましょう！

(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

去る4月14日以降、熊本県を中心に起きた地震は今も余震が続き、現地にお住まいの方々の不安を募らせております。当財団は、この地震で尊い命を落とされた方とその御家族の皆さまに喪心より哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の地震の被害の全容は、まだ判明しておりませんが、家屋の倒壊をはじめ、その被害総額が甚大であることは事実です。文化財の面におきましても、文化庁の調べによりますと、九州全域における国指定の文化財の被害件数だけでも一三〇件を超えています。熊本のシンボルで県民の誇りでもある熊本城や阿蘇神社などの被害の大きさは報道で大きく取り上げられました。しかし、この他にも県指定や市町村指定、未指定ではあっても地域の

核となる社寺や民家、地域の祭礼に関わる建造物や道具、地域の民俗慣習を伝える資料などが多数被害に遭っていると考えられます。このような文化財の被害状況を早期に確認し、救済し、必要な復旧の対策を講じ

ることは、地域の歴史と文化を守り、そこに住む人々の誇りと自信を育んでいくうえで大変重要で、人々のその後の生活再建や町の復興にも係わることです。当財団は、熊本地震による被災文化財の救援・復旧活動を文化庁をはじめ関係諸機関と協力し、開始いたします。多くの方々の御理解と御協力を切にお願い申し上げます。最後にりましたが、五年前の東日本大震災に際しましては、法人、個人の各位から約四億四三〇〇万円の御支援を賜りました。救援・復旧活動は、本年も続いております。当財団の創設者でもある故・平山郁夫先生は常々「文化財を守ることは、人々の心を守ることだ」と申しておりました。私も、この精神のもとで今後も事にあたっております。重ねてよろしくお願い申し上げます。

○寄付金・義援金の受付口座

- 銀行振込の場合
三井住友銀行 上野支店 普通 8399622
口座名義 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
- 郵便振替の場合
振替番号 00160-5-12319
加入者名 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
(※通信欄に「熊本地震」とお書きください。)

熊本地震に係わる登録文化財や未指定文化財等の被災状況



熊本城馬具櫓 ©文化庁



ジェーンズ邸(県指定・熊本市) ©矢野和之



八王神社(未指定・西原村) ©矢野和之



特別史跡 熊本城跡(頼当御門入口) ©文化庁

■文化財保存修復助成事業
国内文化財の保存修復事業助成として、34都府県教育委員会から推薦のあった72件の中から、27件の事業に助成を行いました。
(敬称略・以下同)

- (美術工芸)
- 福井県・称念寺
紙本墨書浄土三部経修理事業
 - 山梨県・熊野神社
絹本着色熊野曼荼羅修復事業
 - 静岡県・龍澤寺
龍澤寺穩寮内入江長八鍍細工保存修復事業
 - 奈良県・正暦寺
木造菩薩立像2軀保存修復事業
 - 山口県・洞春寺
木造大内義弘坐像他3軀保存修復事業
 - 高知県・金剛福寺
木造二十八部衆立像及び風神雷神像保存修復事業
 - 熊本県・黒肥地栖山地区
木造千手観音立像保存修復事業
 - (建造物)
 - 青森県・寶福寺
寶福寺本堂修復事業
 - 山形県・鶴岡市
旧遠藤家保存修復事業
 - 福島県・安洞院
安洞院多宝塔修復事業
 - 茨城県・木村英信
木村家住宅修繕工事業
 - 栃木県・高勝寺
高勝寺鐘楼保存修復事業
 - 群馬県・曹源寺
曹源寺さざえ堂保存修復事業

(研修テーマ)壁画劣化メカニズムの解明と先端技術の文化財修復保護への応用
(研修場所)東京藝術大学大学院美術研究所
文化財保存学木島研究室

■重点助成事業

(1) **尼門跡寺院文化財保存修復助成事業**
東芝プラントシステム株式会社の支援により、尼門跡寺院文化財の保存修復事業に対して助成を行った。(修復継続中)
○宝鏡寺門跡四体のうち「高德院御像」の修復(真如寺)

(2) **東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業**
本事業は5年間継続して実施する予定であり、本年度は4年目になる。申請のあった24件の中から審査の上、19件に助成を行った。なお、無形文化財の助成はバンクオプアメリカ・メリリンチからの支援によるものである。

14ページの特集欄に掲載
■シンポジウム等の開催事業、その他普及広報活動

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連した事業を行いました。

- ① 広報誌「絲綢之路」の発行**
第78号(二〇一五夏)平成27年6月15日発行
第79号(二〇一五秋)平成27年10月15日発行
第80号(二〇一六新春)平成28年1月25日発行
発行部数:各2,000部
配布先:都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布

- 千葉県・飯香岡八幡宮
飯香岡八幡宮拜殿保存整備事業
- 東京都・福島康正
福島家住宅修理事業
- 長野県・林正寺
林正寺修復事業
- 滋賀県・信楽院
信楽院本堂保存修復事業
- 京都府・多治神社
多治神社本殿保存修復事業
- 島根県・出雲教
北島国造家四脚門保存修復事業
- 愛媛県・八幡神社 直瀬総代
八幡神社拜殿屋根修理事業
- 福岡県・高祖神社
高祖神社本殿・拜殿保存修復事業
- 長崎県・竹辺町内会
大宮姫神社本殿保存修復事業
- (有形民俗)
- 神奈川県・鶴岡八幡宮
鶴岡八幡宮神輿保存修復事業
- 富山県・八尾町八幡社氏子
八尾町祭礼曳山保存修復事業
- 岐阜県・掛斐祭芸やま保存会
掛斐祭の芸やま保存修復事業
- 愛知県・一色大提灯保存会
一色の大提灯六組付柱組一式取替え事業



愛媛県・八幡神社(修復後)

- ② **文化財保存修復支援カレンダー**基金の募金活動(二〇一六年カレンダー)
募集期間:平成27年9月〜平成28年1月
製作題材:出光美術館所蔵「伴大納言絵巻」現状模写作品(4年目)
募金応募件数:1,693件
募金額:6,352,440円
- ③ **日中韓文化交流フォーラムの開催**
期間:平成27年11月17日(火)〜20日(金)
会場:中国(温州市)
行事:第11回日中韓文化交流フォーラム
テーマ:「ファッション」
- ④ **「第20回妙高夏の芸術学校」の開催**
主催:妙高夏の芸術学校実行委員会
期間:平成27年7月23日(木)〜7月26日(日)
参加者:日本画(22名) 油彩画(28名) 水彩画(28名) デッサン・スケッチ(10名) 水彩画初心者(8名) 計96名
- ⑤ **第66回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力**
主催:社会を明るくする運動(中央推進委員会他)
- ⑥ **講演会・シンポジウム・展示会等の後援**
第10回「文化財保存・修復」読売あをによし賞」を後援
主催:読売新聞社
後援:文化庁、独立行政法人国立文化財機構他
- (イ)「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルI、レベルIIを後援
主催:特定非営利活動法人 文化財保存支援機構
共催:独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館他
後援:日本文化財科学会他
- (ウ)「アセアン+3文化遺産フォーラム

- ⑦ 大阪市・高向神社
高向神社祭礼囃馬修復事業

- ⑧ 飯内佐斗司
パシエの音響彫刻修復および披露発表会(京都市立芸術大学音楽学部 教授 柿沼敏江)

- 芸術研究等助成事業**
文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表等に申請のあった27件の中から、13件に助成を行いました。
- ペストの予防目的に塗布されたシヤルボ層下における壁画の保存修復に関する研究(東京文化財研究所文化遺産国際協力センター客員研究員 前川佳文)
 - 吉岡孝悦・有賀和郎作曲作品展全曲世界初演(一般社団法人 日本作曲家協議会 作曲家、打楽器奏者 吉岡孝悦)
 - 「うらめしやう、冥土のみやげ」展の関連演奏会(うらめしきことー能楽と謡曲からその世界を手繰るー)(東京藝術大学 大学美術館 准教授 古田亮)
 - 国宝伴大納言絵巻現状模写研究(東京藝術大学美術学部 教授 手塚雄二)
 - オーケストラ・プロジェクト2015(東京藝術大学音楽学部作曲科 教授 小鍛冶邦隆)
 - 文化財の危機管理セミナー『陸前高田学校』「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルII・Bコースとして(特定非営利活動法人 文化財保存支援機構 理事 増田勝彦)
 - 日本国内における銀板写真(ダゲレオタイプ)の保存に関する悉皆基礎調査と持続可能型保存ネットワークの構築に関する研究(日本大学芸術学部 教授 高橋則英)
 - 芥川也寸志生誕90年メモリアルコンサート(ジャパニーズ・コンポーザー・アーカイブス 作曲家 芥川真澄)
 - 平安後期〜鎌倉初期の如來・菩薩形における形状比較研究(東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 教授

- 敦煌研究院より研究員招致(趙曉星) 2015年4月1日〜2016年3月31日(敦煌研究院院長 王旭東)
- 敦煌研究院より研究員招致(張化冰) 2015年10月1日〜2016年9月30日(敦煌研究院院長 王旭東)
- ウズベキスタンにおける文化遺産保存修復技術実技講習(駒澤大学文学部歴史学科非常勤講師 古庄浩明)
- タイ所在の幕末期日本製伏螺鈿製品に関する調査研究(東京文化財研究所 室長 二神葉子)
- トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所長 大村幸弘)
- 外国人研修員招聘(周智波) 2016年1月〜2016年12月(中国、新疆亀茲研究院 文博助理館員)

**二十七年でご支援いただきました
賛助会員の皆様**

- 法人正会員(二十二社) 【五十音順】**
- 朝日生命保険相互会社
株式会社 NHKエンタープライズ
株式会社 NKB
鹿島建設株式会社
株式会社 講談社
株式会社 集英社
全日本空輸株式会社
株式会社 高島屋
武田薬品工業株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 電通
東京ガス株式会社
株式会社 東京ドーム
トヨタ自動車株式会社
日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
野村ホールディングス株式会社
公益財団法人 東日本鉄道文化財団
有限会社 丸栄堂
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社 三井住友銀行
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 ミロク情報サービス
法人維持会員(十六社) 【五十音順】
大塚ホールディングス株式会社
大阪ガス株式会社
株式会社 コメリ
株式会社 資生堂
洲本観光株式会社
株式会社 精養軒
宗教学法人 全昌院
大日本印刷株式会社
大和建設株式会社
千代田絨毯株式会社

株式会社 東京マルイ美術
株式会社 などり
はあーとふるふぁんど委員会
浜名梱包輸送株式会社
株式会社 平成建設
株式会社 横井春風洞

**賛助会員ご入会とご寄付を頂き
ました皆様**

●平成27年12月16日から

平成28年5月25日まで

敬称略/順不同

☆賛助会員
○個人(正)会員(氏名/住所)

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に
対する寄付
ヤフーネット募金(324名様)
文化財保存修復支援カレンダー募金
(株)ジャックス
共同印刷(株)

○尼門跡寺院文化財修復助成事業に対する
寄付
東芝プラントシステム(株)
○松尾大社本殿等修復支援事業に対する寄付
澤甚(株) 他43件

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援
事業に対する寄付
日本玩具博物館
(公社)日展
(株)テラサワビル

- 平成二十七年年度支援事業一覧**
被災した県から、24件の申請があり、審
査の上、19件の助成を行いました。
- (美術工芸)**
①岩手県・光勝寺
阿弥陀如来脇侍像修復事業
(建造物)
②岩手県・盛合光徳
「盛合家」復旧・復元修理事業
③岩手県・八幡神社 総代長 伊藤栄一
八幡神社社殿修理工事業
④岩手県・菊池長一郎
東屋土蔵復旧・復元修理事業
⑤宮城県・門間清
桜田屋敷(旧門間宅)修復事業
⑥宮城県・湊神社 本郷区長 佐藤豊茂
湊神社社殿修復事業
⑦宮城県・気仙沼風待ち復興検討会代表理
事 菅原千栄
気仙沼内湾地区国登録文化財等復興事業
(三事堂さま)
⑧福島県・佐藤利男
佐藤家住宅文庫蔵・主屋復旧事業
⑨福島県・大國魂神社 代表役員 山名隆弘
大國魂神社本殿修復事業
⑩福島県・普門寺 代表役員 日高久光
普門寺観音堂修理復元事業
⑪福島県・岩角寺 代表役員 佐藤俊順
普門寺観音堂修理復元事業
⑫福島県・合名会社 大谷忠吉本店 大谷
浩男
大谷忠吉本店(白陽酒造)建造物群補修工
事事業
⑬福島県・澤野昌男
澤野家住宅建造物群補修工事業(その1)
⑭福島県・友部壽枝
旧神齒科医院補修工事業
⑮福島県・八槻浩子

JOBANAアートライン協議会
日本サムスン(株)

特集

**東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事
業の状況**

■支援事業について

被災文化財の救援と復旧のために募金
(寄付)にご協力いただき誠に有難うござい
ます。皆さま方からこれまでいただいたま
した浄財を被災文化財の救援・復旧のため
に活用させていただいています。
本事業につきましては、平成25年からの
広報誌(夏号No.72、夏号No.75、夏号
No.78)で特集を組み報告をしています
ところですが、今回第四回目の報告をします。
徐々に復興は進みつつありますが、いまだ
支援の手を待っている文化財があり、息の
長い取り組みが必要です。



岩手県・祭り用具整備

- 八槻家住宅土蔵修繕事業
⑯千葉県・三谷昌子
三谷家座敷屋修復工事業
(無形文化財)
⑰岩手県・金沢八幡神社大名行列保存会会
長 小野寺英明
金沢八幡神社大名行列保存会による備品
修理事業
⑱岩手県・箱崎虎舞保存会 会長 川崎功
箱崎虎舞保存会による衣装整備事業
(記念物・埋蔵文化財)
⑲山梨県・県立考古博物館館長 萩原三雄
土器類保存修復事業
- お願い**
当財団の事業は皆様方からの暖かいご支
援によって実施しております。ご協力を
お願い申し上げます。
ご支援には次の方法等がありますので、
詳細は事務局までお問合せ下さい。
◎賛助会員
◎ご寄付
○銀行振込又は郵便振替
○YAHOO! JAPAN ネット募金
○JACCSカード入会
○特定寄付信託
○遺贈
○東日本大震災被災文化財の救援・復旧の
ための募金
募金は次の方法により行っております。
詳細は事務局までお問合せ下さい。
○銀行振込又は郵便振替
○クレジットカード
- 取組のお知らせ**
当財団の事業委員であります三輪嘉六氏

(H28.5.25現在)

■募金(寄付)受け入れと支援事業の状況

区分 年度	募金 (寄付) の状況 上段:件数 下段:金額	支 援 事 業 の 状 況										
		文化財保存修復助成					文化財レスキュー助成			合計		
		美術 工芸品	建造物	記念物 埋蔵文化財	無形 文化財	計	美術 工芸品	建造物	計			
平成 23 年度	544	申請数		1			1		1		1	2
		採択数		1			1		1		1	2
	274,999	助成数		1			1		1		1	2
平成 24 年度	168	申請数	11	67	7	22	107			1	1	2
		採択数	11	47	2	22	82			1	1	2
	51,159	助成数	11	42	2	21	76			1	1	2
平成 25 年度	109	申請数	9	41	2	18	70			1	1	2
		採択数	8	34	0	17	59			1	1	2
	28,453	助成数	7	29	0	17	53			1	1	2
平成 26 年度	74	申請数	2	30	4	9	45					45
		採択数	2	21	2	9	34					34
	46,840	助成数	2	20	2	9	33					33
平成 27 年度	56	申請数	1	20	1	2	24					24
		採択数	1	15	1	2	19					19
	26,611	助成数	1	15	1	2	19					19
平成 28 年度	2	申請数	1	16	3	7	27					27
		採択数	1	9	1	7	18					18
	15,016	助成数	600	36,700	500	6,360	44,160					44,160
合計	953	申請数	24	175	17	58	274			3	2	5
		採択数	23	127	6	57	213			3	2	5
	443,078	助成数	21	106	5	49	181			3	2	5
		助成金	12,825	197,437	3,498	52,141	265,901			65,000	10,000	75,000

(金額:千円)

当財団が、これまでにいただいた募金(寄
付)額と、これに基づき実施した助成の状況
を下表のとおり一覧表にまとめました。な
お、本事業は平成二十八年度まで継続して
実施してまいります。
(注1)募金(寄付)及び支援の呼びかけは、当財
団理事長の他、次の関係者とも連携・協力を図り
ながら幅広く実施しています。
1 文化庁長官による募金の呼びかけ
2 日本サムスンとの連携による「平山郁夫・文
化財赤十字プロジェクト」東日本大震災被災

文化財修復支援事業」
3 ワールドモニユメント財団との連携によ
る「東日本大震災被災文化財復旧支援事業
(Save Our Culture「SOC」)
心を救う、文化で救う」(協力:文化庁、東京
藝術大学)
4 作家京極夏彦氏との連携
(注2)支援事業の状況欄の文化財保存修復助成
については、事業完了後に助成金を支払うこと
なっておりますので、採択後に辞退等した場合、助
成数及び助成金額が変更になることがあります。

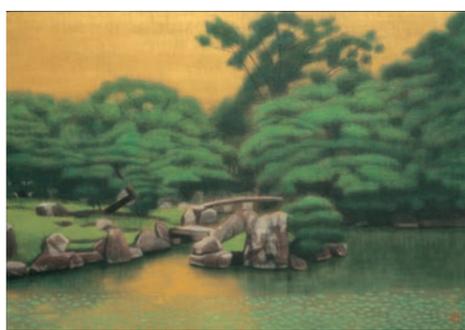
が「瑞宝中綬章」を受章されました。
謹んでお祝い申し上げます。

今号の表紙 平山郁夫 二条城庭園

二条城は京における徳川将軍の館であ
る。家康が江戸に幕府を開いた慶長八年(一
六〇三)に完成した。現在のような規模に
なったのは三代将軍家光によるもので、寛
永三年(一六二六)のことである。そして時
は流れ慶応三年(一八六七)、十五代将軍慶
喜は、ここで大政奉還を宣言した。

二条城はいわば江戸時代の始まりと終わ
りを見届けた城であった。ここに描かれて
いるのは、二の丸庭園で小堀遠州(一五七九
〜一六四七)の作と伝えられている。彼は吉
田織部のと徳川家茶道指南の地位にあつ
た茶人で、遠州流の祖である。

この作品は平成十六年(二〇〇四)に完成
した「平成洛中洛外図」を構成する作品の一
つで、平山画伯は本画と素描を含めて六点
ほど二条城を取り上げている。
二条城は平成六年(一九九四)にユネスコ
世界遺産に登録されている。



二条城庭園 2004年

編集後記

皆さま御存知のように前理事長の宮田亮
平先生の文化庁長官就任に伴い、宮廻正明
先生が当財団の理事長に就かれました。事
務局一同、新理事長を中心に財団の運営に
あたっては一層の努力をいたす所存です。
お花見気分も醒めやらぬ4月14日、熊本
地方を中心にして起きた大地震は大きな被
害をもたらしました。文化財として例外では
ありません。当財団は文化財と共に官民一
体の態勢のもと、被災文化財の救済・復旧
活動を開始することを決定いたしました。
詳細はもう一度、本文を御覧ください。こ
の活動には多くの方々の御協力が必要で
す。もちろん、東日本大震災による被災文
化財の救援・復旧活動も継続中です。皆さ
まのあたたかい御支援・御協力を切にお願
い申し上げます。

山笑う、という言葉の通り今、野も山も
鮮やかな緑一色の世界です。一年の中でも
最も快適な時かもしれません。しかし、季
節はまもなく梅雨を迎えます。環境がいろ
いろ変わってまいります。皆さま健康には
くれぐれも御留意ください。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
二〇一六年 夏号 通巻第八十一号

★平成二十八年六月二十一日発行
★編集発行/公益財団法人文化財保護・
芸術研究助成財団 事務局◎
〒1100007 東京都台東区上野公園十二一五十
電話 (03) 五八八五一一三一一
FAX (03) 五八八五一一二二五
URL: http://www.bunkazai.or.jp/
E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp
★印刷 株式会社 東都工芸印刷